

3-19

おサイフケータイを ドアの鍵として利用する

おサイフケータイは住居のドアの鍵にもなる

ドアの鍵を忘れて外出し、困った経験は誰にでもあると思う。「携帯電話でドアの開錠ができるものか？」そんな発想から生まれたのが、おサイフケータイでドアの開錠ができる、KESAKAシステム社の「**KESAKAサービス**」である。このサービス対応のドアにはリーダー/ライターがついており、ドアの開錠はおサイフケータイをかざすだけで実行できる。

KESAKAサービスにはユニークな機能がいくつもある。例えば合鍵発行サービスは、**マスターキー**を管理している携帯電話から**合鍵**を発行し、メールで別の携帯電話に送信するサービスだ。その鍵を受信した携帯電話でドアを開錠することができる。合鍵には有効期限を設定することができるので、遊びに来ている親類に有効期限付きの鍵を発行するといったことが可能。マスターキーを管理している携帯電話からなら、強制的に合鍵の権限を削除して利用できなくすることも可能だ。それ以外にも、鍵が施錠されているかどうかを外出先から携帯電話で確認し、鍵がかかっていなければ施錠することができるので、うっかり締め忘れた場合でも安心である。また、登録した携帯電話に開錠、施錠の情報をメールで送信することも可能なので、子供が帰宅し、開錠したら保護者の携帯電話にメールが届くといった機能もある。

携帯電話を紛失してしまった場合は、マンションの管理サービス(KESAKAサービス)に連絡をすれば、すぐにドアから鍵の情報を削除し、万が一他人が携帯電話を拾ったとしても、開錠できないしくみになっている。従来なら鍵をなくした場合は部屋の鍵ごと取り替えなければならない、費用も時間もかかっていたが、このサービスの場合は鍵の情報を変更するだけですむ。

おサイフケータイでKESAKAサービスを利用していても、Edy、Suicaといった電子マネーは通常通り利用できる。サイフだけでなく鍵の所持も不要になり、おサイフケータイだけを所持して外出することができるのである。

おサイフケータイをドアの鍵として利用する



ドアに設置されたリーダー/ライターにおサイフケータイをかざしているところ。ICカードも発行されるので、ICカードでも開錠することができる。

誰が何時に開錠したのかなど、開錠、施錠の履歴を携帯のメールに送信するサービスもある。

携帯電話をかざすだけでドアの開錠ができるので、夜などの帰宅時で暗かったとしても、鍵穴を探す必要がないためドアが開けやすい。他にも手が震えて鍵穴に鍵を入れにくいという高齢者にも好評である。

